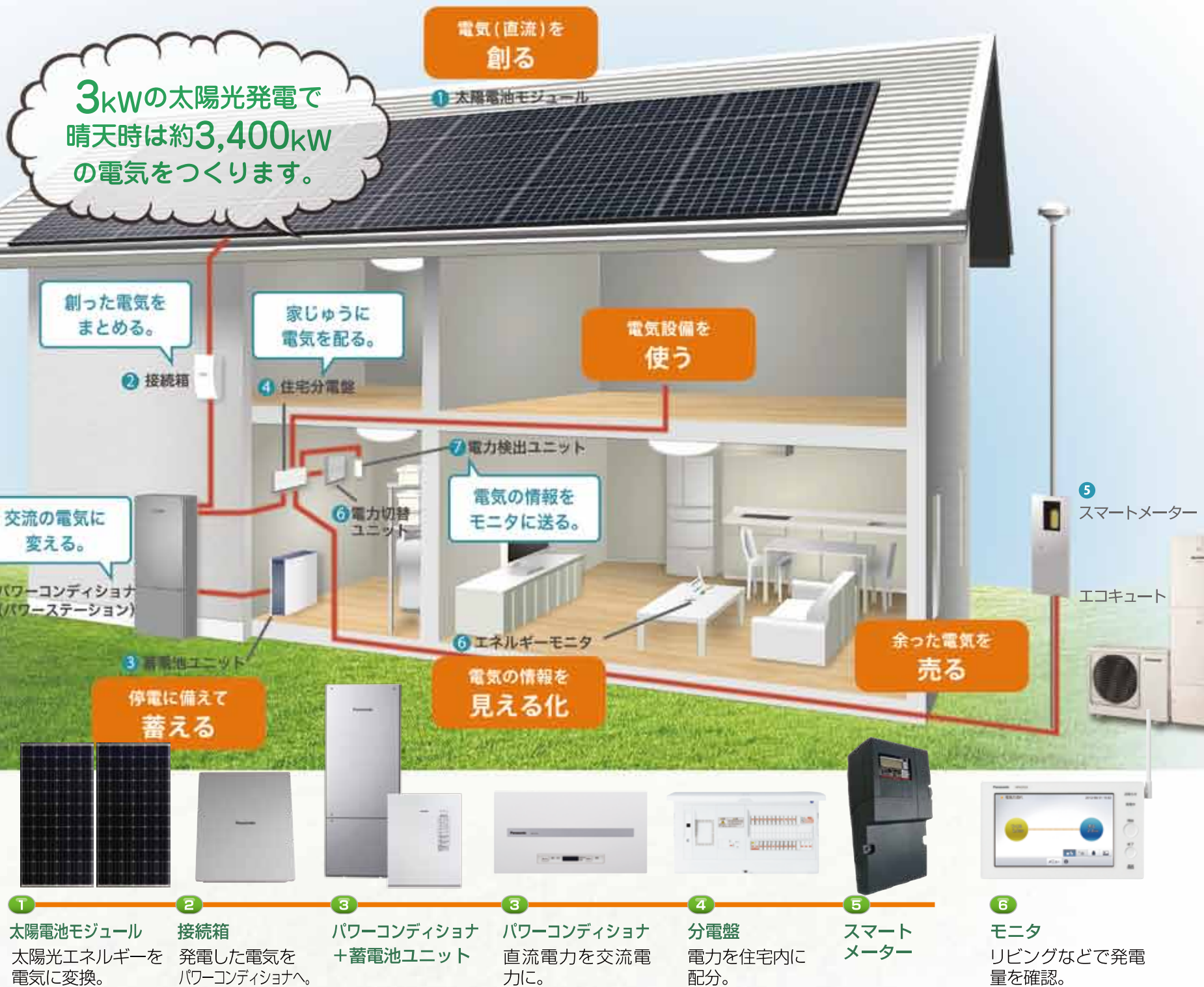


# 先進 Status

ご家庭のエネルギーは自給自足の時代です。災害時にも自給自足でご家族の危機管理。太陽光を活用してご家庭で電気を創り余った電気は電力会社に売ること、貯めることもできます。

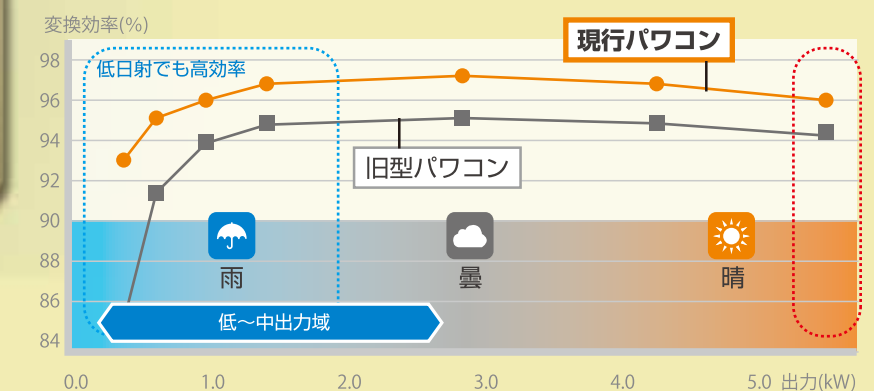


## 発電の仕組み

- 1 太陽電池モジュール**  
太陽の光で電気を創ります。
- 2 接続箱**  
創ってまとめた電気をパワーコンディショナへ送ります。
- 3 パワーコンディショナ+蓄電池ユニット**  
太陽電池モジュールで創った電気を分電盤に送り、各コンセントへ電気を送ります。また余った電気を蓄えて、停電に備えたり、夜間に使い自給自足の生活が可能です。
- 6 モニタ**  
発電電力量、消費電力量、売電電力量を詳細に大きな画面で表示し、省エネ意欲を高めます。

朝夕や曇りの日など出力が低い時でも効率よく交流に変換します！

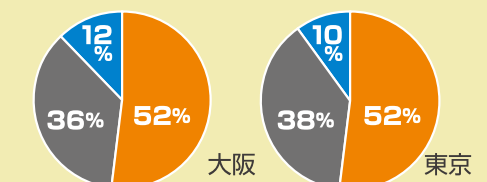
### 5.5kWクラス 直流を交流に換える時の効率曲線比較



### 年間の天気の割合

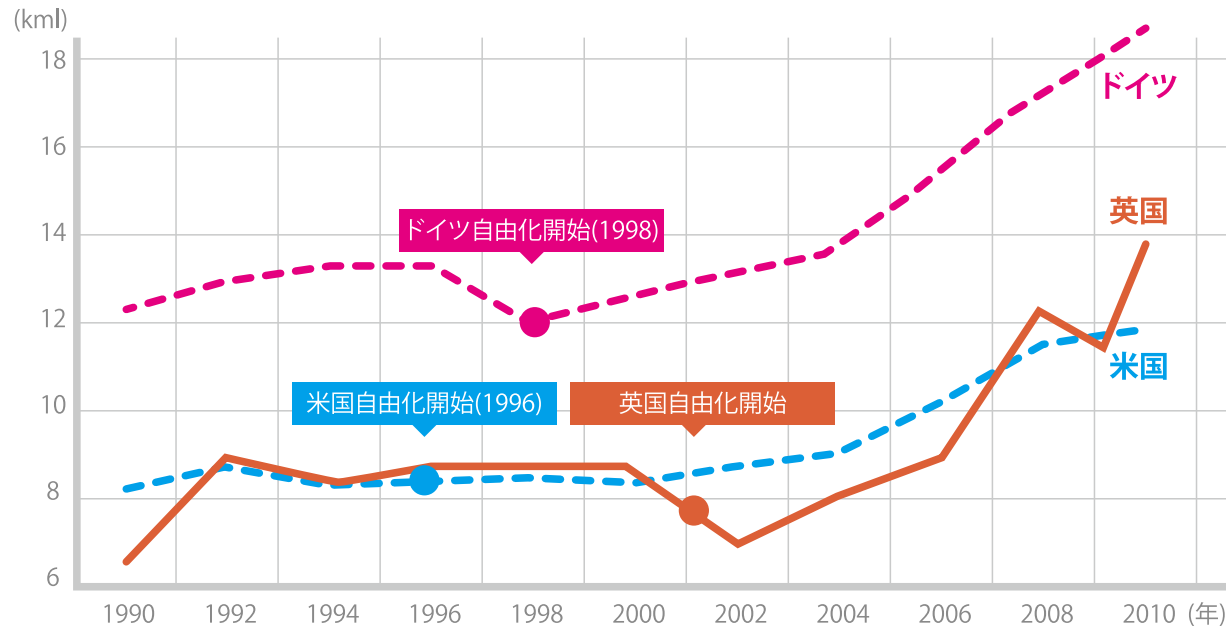
なんと1年の約半分は「曇りの日」が「雨の日」

■晴 ■曇 ■雨



## 諸外国における電気料金の推移

2016年4月より始まる日本の電力自由化。先行して自由化された諸外国ではどうなっているのでしょうか。

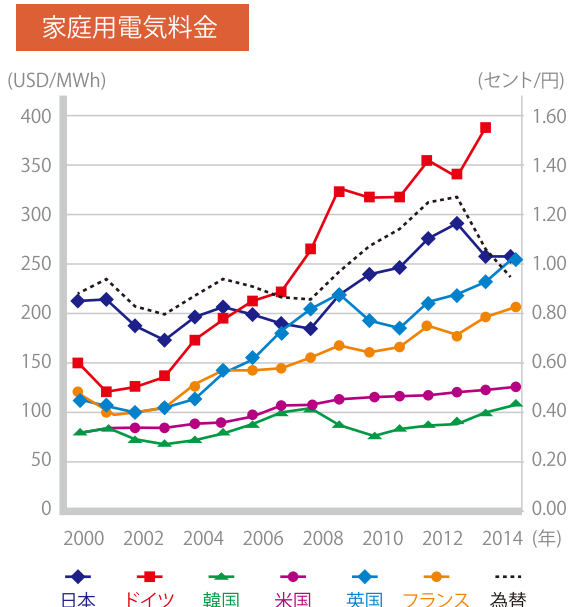


**自由化前後における燃料費を除いた電気料金の上昇率が高い国・地域**

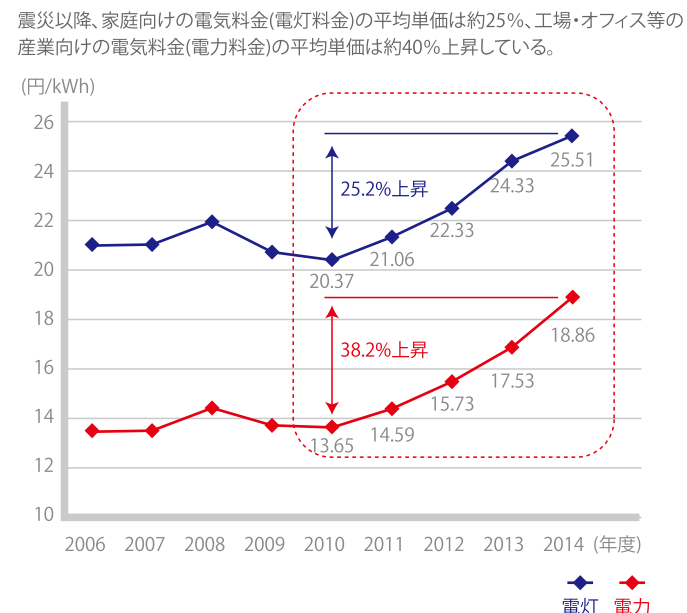
電力の自由化は、電気料金が低下すると思われていますが、価格が高騰する国や地域も少なからずあります。

1. 電力卸供給費用と一般管理費の増加
2. 送配電費用の増加 (日本は2018年発送電分離)
3. 再生エネルギー割賦金の増加
4. 設備増強費用等

## 電気料金の国際比率

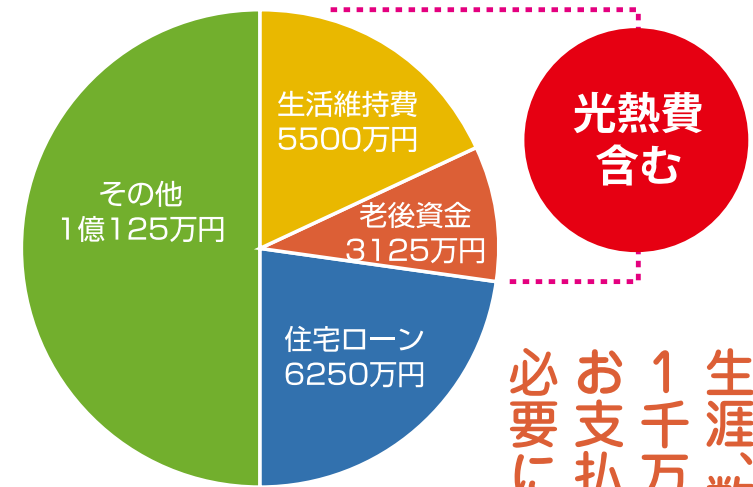


## 一般電気事業者の電気料金推移(電灯・電力)



## 一般的なサラリーマンの生涯収入額 2.5億円

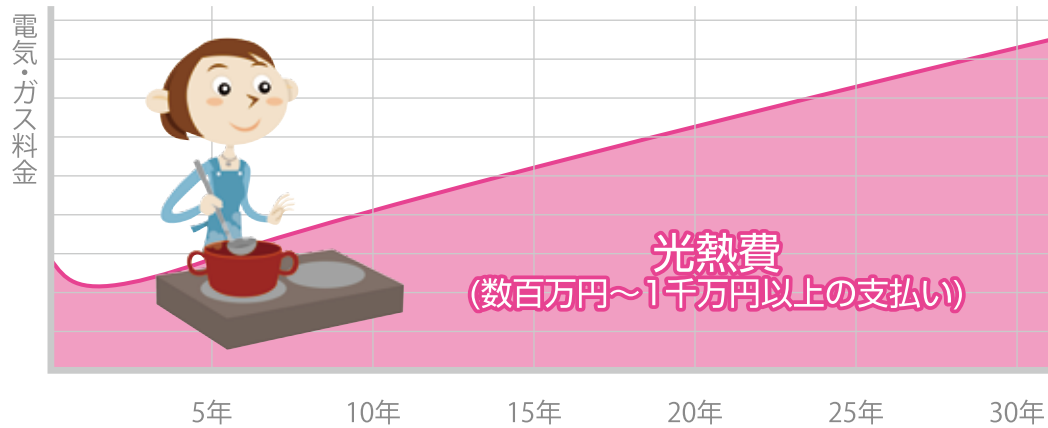
- 生涯所得の1/4が住宅ローン
- 生活維持費5500万円
- 老後資金は生涯収入の1/8
- 教育費全て公立の場合 1人 = 1000万円
- 教育費全て私学の場合 1人 = 2300万円



**光熱費含む**

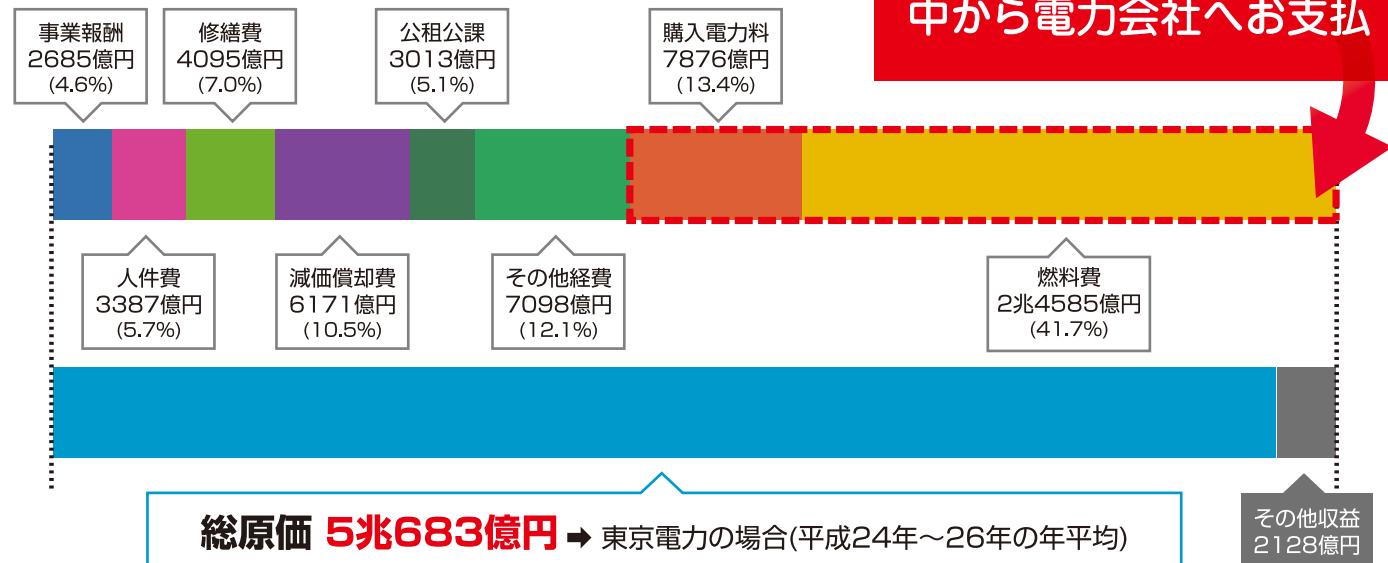
生涯、数百万円から1千万円以上のお支払いが必要になります。

## 通常の光熱費



## 総括原価方式

家庭向けの電気料金は、必要なコストと適正な事業報酬を積み上げ、その総額に基づいて電気料金が算定されます。



**生活維持費・老後資金の中から電力会社へお支払**

総原価 5兆683億円 → 東京電力の場合(平成24年~26年の年平均)